

原子力耐震問題セミナー「敦賀発電所の活断層の真実」開催のご案内

このたび、原子力安全工学科・原子力耐震工学研究室では原子力耐震問題セミナーとして、「敦賀発電所の活断層の真実」と題した講演会を企画致しました。

5月22日に原子力規制委員会は、日本原子力発電所(株)(以下、日本原電)の敦賀発電所の原子炉2号機建屋の直下の破碎帯を「活断層の可能性を否定できない」として活断層と判定しました。これは、発電所敷地の端に日本原電が調査した際に見つかった短い断層を、全く別の場所にある上記の破碎帯の延長とみなしたものです。この決定により、2号機は廃炉を余儀なくされる可能性が高くなりました。

しかしながら、この活断層審査に関する審議過程においては、当事者である日本原電を審議に参加させずに追加の地質調査データを取り上げず、判断のよりどころとなる地層データが非常に不足しているにもかかわらずに早急に判断を下すなど、活断層ありきの強引な審査が行われており、非常に不可解な行動が目立ちました。審議に加わった一部研究者や他の多くの研究者からは、「判定根拠がデータに基づいていない」、「審査報告書は全く学術的でない」、「時期尚早。追加調査の上、判断すべき」、「破碎帯は活断層とは異なると考えるほうが合理的」などの批判が上がっています。

原子力規制委員会は、原子力安全行政の要であり、日本のエネルギー供給や電力会社の死命を左右するほどの強大な権限を持っています。それゆえ、耐震審査、特に、活断層審査においては、謙虚に十分な議論を尽くさなければなりません。しかしながら、今回のような原子力規制委員会の強引な審査は、今後の原子力安全行政に大きな禍根を残しかねません。

そこで、日本原電の方に、実際の地質調査にもとづいた破碎帯や周辺の活断層の状況、規制委員会と日本原電の見解の違いについてお話いただきます。ぜひ、講演をお聞きになり、何が問題か、何が真実か、皆さん方自身で原子力施設と活断層、今後の原子力安全行政やエネルギー問題などについて考えていただければ幸いです。

記

日時：2013年7月24日(水) 13:30～15:30

場所：東京都市大学 世田谷キャンパス 21C教室

講演題目：「敦賀発電所の活断層の真実」

講演者：日本原子力発電株式会社 開発計画室 神谷昌伸氏

参加費：無料

参加申し込み：参加は自由ですが、配付資料に限りがありますので配布資料をご希望の方は、
原子力耐震工学研究室 藤本まで参加申し込みをお願い致します。

E-Mail：sfujimo@tcu.ac.jp

企画運営：原子力安全工学科 原子力耐震工学研究室 藤本、古屋

以上